

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



“テロリストに乗っ取られた”JR東日本の真実”

「マングローブ」ダイジェスト版 第14回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

組合を裏で操る「労研」の存在

元JR東労組幹部の本間氏は、私の取材に、これら「トラジャ」や「マングローブ」などの実態についてこう証言した。「トラジャは、国鉄分割民営化直前の86年、松崎を中心とした旧動労革マル派が、組合活動家を抜擢し、革マル派本体に送り込み、『職業革命家』としての訓練を受けさせたグループ。JR革マル派組織のトップで、マングローブの指導などに当たる組織です。一方のマングローブは、分割民営化後のJR各社の労働組合における革マル派の組織防衛と拡大を目的に、JR革マル派内部で作られた組織なのです。目黒さつき会館の四階に常駐しているメンバーを頂点に、組合員に革マル派思想を浸透させると同時に、組合員からのカンパを革マル派党本部に上納しているのです。...

そして、これ以外に Aメンバー などの秘密組織も登場するのだ。本間氏が再び語る。
「Aメンバーは革マル派シンパで『ハイスクールメンバー』とも呼ばれています。約10~20人で『A会議』を作り、『A会議』は各地方に1~十数個あるといわれています。このAメンバーを指導するのがマングローブ。『ユニバーシティ』はマングローブの別名です。マングローブは各地方のA会議に出向き指導する。Aメンバーとの個別学習会や議論を通じて、松崎や革マル派の思想を叩き込む。さらにそのAメンバーが今度は『Lメンバー』と呼ばれる組合員を指導する。

『L』とは革マル派の機関紙『解放』(Liberation)の頭文字。Aメンバーは組合活動に熱心な組合員のなかから、Lメンバーをピックアップし、革命を意識的に考える学習会『L会議』を作るのです。『L会議』では、『解放』など革マル派の文献などを使って学習し、組合員の指導や、運動上の問題点を議論します。『L会議』も各地方に数十個存在するといわれているのですが、お互いをペンネームで呼び合うなど秘匿性が高く、会議に参加している者しか『Lメンバー』はわからない。そして、この『Aメンバー』や『Lメンバー』も毎月、革マル派にカンパを上納しているのです」

そしてさらにJR東労組には、組合全員で操る『労研』という組織も存在するという。本間氏が続ける。「実はJR東労組は二重構造になっていて、JR東労組を実質的に支配しているのが、この『労研』なのです。『Aメンバー』、『Lメンバー』たちが組合活動に熱心な組合役員をピックアップし、『労研』への入会の決意を促すのです。実際、この『労研』から多くの幹部が輩出されています。

また労研は『中央労研』、『地方労研』、『支部労研』と縦組織になっており、中央会費、地方会費、支部会費などが定期的に集められ革マル派に上納される。この労研は『革マル派のフラクシオン(細胞)の一つと言われているのです。当然のことながら革マル派の影響を色濃く受けており、松崎の著書などを教材に学ぶのです」

【マングローブ(講談社)P.201~P.203】